



# 第1会場●2F第4研修室

司会／内藤 妙子 福岡県生活労働部青少年課青少年アンビシャス運動推進室 企画主査  
石川 順雄 広島県尾道市教育委員会生涯教育課 社会教育主事

## 1 美術館における少年のための「ふるさと教育」の実践と成果 13:30～13:55

－「石正美術館」の「本物」鑑賞を創作活動につなぐふるさと評価の方法－

神 英雄（島根県） 浜田市立石正美術館 主任学芸員

開館以来、活動の中心は日本画家・石本正の作品を通して子ども達にふるさと「石見」地区の歴史と文化を伝えることに置いた。活動の核は作品を通したふるさとの再評価であり、「本物」の鑑賞の感動を創作活動に結び付けて参加者の創造力を養うことを目指した。活動の過程には市民の「美術館サポーター」を導入し、5年を経て、子どもの変化が著しく、地域も元気になった。

## 2 東国東（ひがしくにさき）デザイン会議のまちづくり・教育力向上戦略 13:55～14:20

－子育てを中核とした地域総参加の協働プログラム－

富永 六男（大分県国東市安岐町） 東国東デザイン会議

東国東デザイン会議は平成元年の結成。40～50代の住民提案を受けて、平成17年度からは、地域づくりと教育力向上プロジェクトを結合し、子育て支援を中核としたプログラムを学校、PTA、社会教育行政、住民の協働によって展開中。シンポジウム、講演会、小規模の単位集団での討論会などを組み合わせ問題意識の醸成に成功している。次の課題は人々の意識の変化を具体的な活動として実践することである。

ティータイム

14:20～14:55

## 3 私はひっさつ仕掛人！障害者小規模作業所イベント 盛り上がりのミソ 14:55～15:20

大田 百子（鳥取県淀江町） 淀江小規模作業所 スタッフ

精神・知的障害者が通う小規模作業所が通所者と運営スタッフの協力によって、地域社会との共生を目指したイベントづくりの取り組みを始めた。財源は行政の補助金を基にしたが、課題はメンバーの主体性を企画・運営にどのように活かすかであった。毎年1つのイベントの創出はメンバーの意識と行動を変え、地域住民との交流も芽生え、「応援団」も結成されるまでになった。

## 4 韓国釜山地域平生教育情報センターの現状と課題 15:20～15:45

金富允・朴在国（韓国釜山） 金富允（キム ブーユン） 釜山大学校平生教育院 院長

朴在国（パック チェーグック） 釜山大学校平生教育院 副院長

韓国釜山地域平生教育情報センターの現状について紹介するとともに、日本における動向と比較しながら韓国における今後の発展のための課題について検討する。

## 5 総括討論

15:45～16:15